

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 2 年次生 井阪 瞭介

この度、国際交流基金の助成を受け、2019 年 3 月 5 日から 18 日までの 2 週間の間、オーストラリア・ゴールドコーストにて語学研修に参加したので報告致します。

1. 語学学校

私たちが現地にて通うことになった学校は、TAFE Kingscliff という所でした。ここは大学というよりは専門学校のような場所で、美容師になるための勉強やマッサージ師になるための勉強など様々な職種につくための学部が集まったような学校でした。

まず現地に着いた初日に welcome seremony が行われ現地校の先生方の紹介や大まかなスケジュールの説明などがされました。そのスケジュールはとても考えられていて、毎日が忙しいぐらいに色々な行事が組み込まれていました。

次の日には、イントロダクションとクラス分けのためのテストが実施され、その翌日からは早速 2 クラスに分かれての授業が始まりました。私の英語のクラスを担当してくださったのは Lozy という先生でとても親しみ易くかつユーモアのある方でした。日本で受ける英語の授業とは大きく違い、様々なオーストラリアの文化や歴史を学びながら、speaking や writing を繰り返し文法の学習や多種多様な言い回しそして語彙力の向上につなげることができたので飽きずにとっても楽しみながら講義を受けることができました。

2. ホームステイ

私がホームステイさせて頂くことになったのは、Mac Anally 夫妻のお宅でご主人の Marty は家のリフォームなどを行う仕事をしていて、奥さんの Michelle は私が現地に通っていた TAFE で英語の教師をしていました。それだけではなく、なんと日本でも若い頃にネイティブスピーカーとして英語の先生をされていたらしく、日本語も簡単な文程度ならスラスラと話せるような方でした。また、オーストラリアの方はとても大らかで優しいということを度々留学する前のオリエンテーションで聞かされてきましたが、実際に行ってみると噂以上のものでとても家庭的な温かい人たちでした。そのため、人見知りな私でも積極的に話しかけていくことが出来、ホームステイ全体を通して大変有意義なものにすることが出来ました。

3. 現地の薬局見学

現地の薬局見学をするにあたって、その前にオーストラリアの大学の薬学部を見学させて頂きました。詳しい授業の内容などはわかりませんでしたが、私たちがお邪魔したクラスではある症例を基にして治療の方法を議論するというをしていました。またそこでは軟膏づくりを体験させていただきました。薬局見学では、事前学習でオーストラリアの薬局の仕組みやそこで働く人たちの役割などを勉強した事と照らし合わせながら、色々なことを勉強させて頂きました。オーストラリアには薬の成分や効果によって schedule というものがあり、これによって薬の売れる人が変わってきます。そのほか、様々な薬学に関することを学ぶことが出来ました。